

専大ととも 神田神保町探索 <<3



風月洞書店

作品の背景や歴史を調べる店主と同好の古美術ファン。日高義博理事長・学長、樋口淳文学部教授も常連だ。

店主の大久保望さん。市場へ出掛けている間は弘学夫人が店に立つ

明治時代の初期、専修学校(専修大学の前身)をはじめ多くの学校が誕生し、キャンパスのある神田神保町には全国から学生が集まった。周辺に古書店が次々と開店。神保町古書店街は、いまや世界最大規模を誇る。

本好き、骨董好き高じ 入門エッセー集出版

「40年程前、何気なく生活に使う古い器を集めたのがはじまり。古書とかかわりも同じころ」と話す大久保さんは、昨秋、骨董集めの体験的写真エッセー『瓦衆多陶讃の骨董日記』(里文出版)を上梓した。

数年間まで専大交差点近くのビル2階に店舗があった。神田キャンパスと周辺を彩る鳳祭の提灯企画の協賛店で、時期になれば担当学生たちと付き合う。「最近の学生たち、すっかり本と遠ざかってしまいい残念です。近くにこんな大きな書店街があるんだからもっと利用してほしいな」



▲ 風月洞書店の店頭

水風月洞書店 千代田区神田神保町1-15 清田ビル 19) 6006

影の中国経済 大きくなる

国際金融危機のなかで中国は、一足先に景気回復に向かっている。今月の「G20国際金融サミット(首脳会議)」では、注目を集めそうだ。大橋英夫経済学部教授に寄稿していただいた。

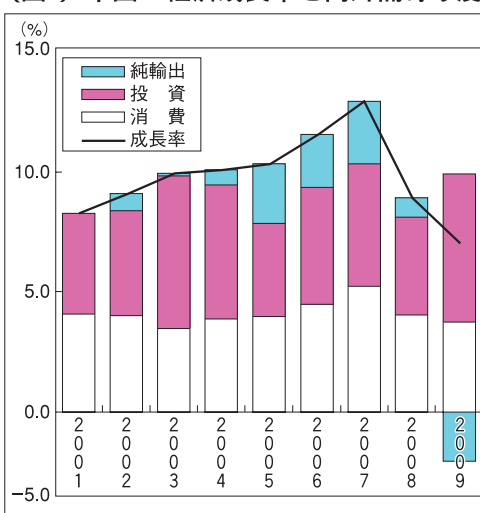


経済学部教授 大橋 英夫

2008年秋からの国際金融危機のなかで、中国経済の存在感が高まっている。国際金融危機の直接的影響、たとえば、サブプライムローン問題が中国の金融機関に及ぼした影響はきわめて限定的であった。しかし国際金融危機に伴う世界的な景気後退は、中国の实体经济に甚大な影響を及ぼした。

今世紀に入り中国経済は、90年代末のアジア通貨危機の影響を脱し、01年末の世界貿易機関(WTO)加盟を契機として空前の活況に沸いた。投

(図1) 中国の経済成長率と内外需寄与度



注: 2009年は上半期。資料: 「中国統計摘要」2009年版、国家統計局「2009年上半期国民経済運行状況」(2009年7月16日)

「危機後」の世界引っ張る 注目される今月のG20

内陸地区が上位に位置する。一方、これまで改革・開放の最前線に位置した沿海地区の上海、広東、浙江などはいずれも下位に低迷している。このように転じた。

「日中逆転」後の世界経済

1. 不況にあえぐ世界経済にあって、中国経済への期待はきわめて大きい。しかも08年9月に中国は日本を抜いて米国債の最大の保有国となり、あたかも米国経済の「救世主」であるかのようにみられている。また世界経済の運営面でも、G20国際金融サミットを中心に中国の存在感が増している。ここから米国では、米中両国による世界経済の運営を含意するG2といった概念が提起されるようになった。

「成長方式の転換」を目指す

リーマン・ショックが判明した翌日の08年9月16日に、中国人民銀行は金利と預金準備率の引き

「超」金融緩和のもと、大量の資金が限られた投資機会である株式・不動産市場に流入し、資産バブルに対する警戒感が強まっている。「出口戦略」を早急に検討すべき段階にあるといえる。しかも政府主導の「介入主義」的な経済運営のもとで、投資主導型成長への回帰がみられ、懸念の「成長方式の転換」は暫時棚上げにされたかの感がある。

都合により 写真を掲載いたしません

▲ 過熱する中国自動車市場。上海の東風日産自動車の販売店で品定めする男性=毎日新聞社提供

(表1) 世界経済見通し

Table with 5 columns: Country, 2007, 2008, 2009, 2010. Rows include World, Advanced countries, USA, Eurozone, Japan, NIEs, Emerging countries, Brazil, Russia, India, China.

注: 2009年~10年は見通し。資料: IMF, World Economic Outlook Update (July 8, 2009)

い。もともと現行の第11次5カ年計画(06~10年)では、投資・輸出主導型から消費・内需主導型への「成長方式の転換」が提起されていた。したがって、今般の国際金融危機は「成長方式の転換」にとっても格好の機会となるはずであった。一連の景気対策の効果もあり、09年春頃から中国経済は回復傾向を示し始めた。ところが、09年7月のマネーサプライ(M2)の伸び率は28.4%増、1~7月の新規融資増加額は7兆7232億元に達し、同年の目標である前者の17%増、後者の5兆元をはるかに上回っている。